

中国からの留学生とボランティア

医学部に中国から留学している女性が、日本の病院のボランティア活動について研究しているとかで、見学にきた。

彼女から「中国でボランティア活動は育つには何が必要と思うか」との問いがあった。僕は「中国人の中には、『側隠の情』というものがあると聞いている。その現れの一つが、今『中国残留孤児』といわれる子ども達を、あの混乱の時にあんなにもたくさん引き取り育てて下さった。『側隠の情』の成せる技と思う。こうした精神が中国人にある限り、将来、中国でもボランティア活動は育ち、活発になると思う。」と答えた。中国の方とじっくり話したのは始めてであり、日本人としてお礼を言う機会を得たことが、なぜか自分の肩の荷の一つがおりた感じを抱いたのはどうしてであろうか。

僕の聞いた「側隠の情」とは、「目の不自由な幼な子が歩む先に大きな水溜まりがあり、その様子を見た時、何のためらいもなく人は手を差し伸べる。」というものである。つまり、助けて親から礼を貰おうとか、人として誉められようとか、そういったことを考えず、困っている、困るであろう人に手を差し伸べる「人が本来持っている情」をいうものであった。

(2002年01月22日記)